

令和3年5月14日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

それではただいまから、市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

よろしくお願いいたします。記者の皆さん、そして市民の皆さんに対しまして、今、一番関心のあること、それはワクチン接種事業が静岡市はどのような現況なのかということだろうと思います。全国的にも喫緊の課題だと、各自治体が今それぞれ頑張っているところであります。本日は65歳以上の方へのワクチンの接種スケジュールについて、静岡市の現況をお伝えいたします。ご存じのとおり、今週の月曜日、10日から85歳以上のワクチンの接種の予約がスタートいたしました。初日に約9万8,000件の電話がありました。準備をしたつもりでありますけれども、電話がつながりにくい状況が続いており、大変心苦しく申し訳ないと思っておりますが、目下、混雑解消の対策を急いでおります。さて、その中で国からは、とにかく65歳以上の方々に7月中旬に2回のワクチン接種をしてほしいという強い要請があるというところであります。そこで、静岡市としてもできるだけ早くワクチン接種をしていただきたいという思いの下で、最善の努力をして、7月中の65歳以上の方への接種の終了を目指してまいります。ただし、非常にハードルは高いということもお伝えしなければなりません。このパネルをご覧くださいいただければ分かると思いますけれども、従前、6週間ワンクールであります。とにかく8月中旬までという予定でいたわけですけれども、これもかなり無理くりの、静岡、清水の両医師会に大変な協力をお願いして作ったスケジュールです。それをさらに2週間ほど前倒しをしてほしいということが、今、国からの強い要請であります。そこで議論、検討を進めて、具体的には接種スケジュールの前倒しについて、目下、県と連携をして、集団接種の対応できる可能数を増やしていきたいと検討を進めております。これはハード、ソフト、両面からの構えが必要なんです。まず、大規模接種をする受け皿としての会場を準備しないとイケませんし、そこでワクチン接種をする医療従事者、いわゆる打ち手を確保しなければなりません。これは大きな課題であります。いずれにせよ、今後、感染拡大のリスクも見据えて、静岡市の医療提供体制を維持しつつ、ワクチン接種を早められるようにご関係の皆さんに協力を要請していきます。2つのLifeを守るというスローガンの下で最善を尽くしてまいりますので、ぜひご理解をお願いいたします。以上です。

◆司会

それでは、ただいまの発表につきまして、皆さまからのご質問をお受けしたいと思います。

す。社名をおっしゃってからお願いいたします。いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。この前倒しは何をどうすることによって実現するということか、もう少し詳しく伺えますか。

◆市長

今一つ、例えばという検討中のことを申し上げました。県と連携をして、大規模集団接種会場を確保して早めていくという方法であります。

◆NHK

そこをもう少し、県と連携して、何か県の施設を使うということなのか、何なのか。

◆市長

ほかにもいろんな前倒しができる方法を広範に検討していますが、例えばこのことについては少し深掘りしてお答えしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◆保健所統括監

保健所統括監の松田と申します。まさにこれから県とは連携、調整をしていくという考えであります。大規模接種会場は既存の静岡市の集団接種会場のキャパを増やすなり、あるいは個別接種会場にさらに先生方に協力を頂きながら、そちらのほうの回数を増やしていくということを併せて、それでもこの前倒しをするために、静岡市としては大規模な集団接種会場が必要ではないかと考えておりますので、会場の確保、それから医療従事者の確保、こちらにつきましても県と連携を図りながら、これから前に進めていこうというふうに考えております。以上です。

◆NHK

それは東京や大阪と、同じ規模ではないとは思いますが、あちらにいわれているような都市圏の大規模集団接種会場に似たイメージのものを静岡市もつくるということなのかということと、その場合、静岡市以外の焼津市とか富士市とか、周辺の市町も一緒に対象になってくるのかどうか、いかがでしょうか。

◆市長

これも実務的に答えさせていただきますので、あとで回答をフォローしてほしいのですが、イメージとしてはご存じのとおり、自衛隊を活用して、東京と大阪で大規模

接種会場を国は考えてますよね。それと同じように、それまでの規模はいかないかもしれないけども、静岡の数字の中で県と市と危機感を持って、一緒になって、そういうような会場と医師の確保をしていこうという試みであります。検討中だということはご理解いただきたいと思いますが、何か補足はありますか。

◆保健所統括監

県と連携するということで、会場をどこに設営するかということにもよるかと思いますが、周辺の市町の状況も、これは県のほうで情報をつかんでおりますので、そちらのほうの情報をお互いに交換する中で、記者がおっしゃったように、静岡市民のみではなくて、周辺の市町も含めたというようなことも当然視野に入ってくるのかなというふうには考えております。

◆NHK

まだ具体的にはなっていないとは思いますが、その辺り、県としても一緒に設置する、周辺市町と協力していくという協議は始めているということですね。

◆市長

そうです。

◆NHK

市町でいうと、どの範囲で協議を今されていますか。

◆保健所統括監

そこは本当に具体的な話になってしまいますので、まだこれからというかたちで、まずは県としっかり連携をしていきたいというふうには考えております。

◆NHK

イメージとして何人規模、1日何人接種可能というものを目指されているか、あくまで現時点のイメージとしてでもお聞かせいただけませんか。

◆保健所統括監

静岡市の2週間ちょっと前倒しをすることによって、不足する接種回数が約15万回ほどというふうな想定をしております。ですので、この15万回を6月の中旬、2週目からになります。7月末までの6週間で接種を行っていくということなので、可能性としては15レーンから18レーンとか、その1時間に接種できる人数の調整も必要かと思いますが、そういったかなり大規模な会場、それから、そういった会場を毎日運営する

というような医療従事者の確保、こういったところが非常にハードルが高いかなというふうに考えております。

◆NHK

ごめんなさい。その15レーン、18レーンという想定だと、大体1日何人ぐらいの接種が可能になると見込まれるか、いかがでしょうか。あるいは会見終了後、その辺りもブリーフィングしていただけるということでも結構ですが、お願いします。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。読売新聞さん、お願いします。

◆読売新聞

読売新聞です。よろしくお願いします。非常にハードルが高いというお話でして、実現可能性としてはどれぐらいのものなんでしょうか。

◆市長

実現したいとは思っています。ただし、医療従事者のなお一層の協力が必要だという理解をしておりますので、今後の協議に委ねたいと思っています。

◆読売新聞

非常に難しいということになるんですかね。何%とかという。

◆市長

それはなかなか数字として表せないですけども。

◆読売新聞

あと、できるかできないかということは、どれぐらいの時期に判断がされるんでしょうか。

◆保健所統括監

タイムリミットが7月末ということで決まっておりますので、そうしますと、その6週間前に接種をスタートしなければならないというかたちになります。当然、その前に予約を案内しなければならないということがございますので、決して余裕があるスケジュールではないものですから、この後すぐというようなかたちで準備を進めていくというかたちになろうかと思えます。

◆読売新聞

その準備を進めた結果、できそうかできなさそうかってというのが市民のほうに伝わるのは、発表されるのはいつぐらいって目安はあるんでしょうか。

◆保健所統括監

そこはできるだけ早くというふうなことを考えております。

◆読売新聞

あと、すみません、もう一つ最後に、前倒しの必要性について、市民にはどのように説明されるかということについてお願いします。国は要請しているということなんですが、静岡市には静岡市の事情があると思います。それでも、なお前倒しをするということについてはいかがでしょうか。

◆市長

これ、私たち、政令指定都市のネットワークの中で状況を確認して、どこもハードルが高いという、悪戦苦闘をしているというのが現状です。ただ、市民の皆さんが早く接種をしたいという気持ち、基礎自治体として身近に感じておりますので、何とかそれに最善の努力をしていきたいなというふうに思ってます。ただ、同時にワクチン量は確保してありますので、65歳以上の方、必ず接種できますので、一日も早くという気持ちはありますけれども、そのところは私たちに任せてほしいということを市民の皆さんにもお願いしたいと思っています。

◆読売新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。SBSさん、先をお願いします。

◆SBS

SBSです。今のところ想定範囲かもしれませんが、大規模接種会場ってどのくらいの規模であったりどういったふうにしたい、イメージだけでも教えていただければうれしいなと思うんですけども。

◆保健所統括監

先ほどちょっと申し上げましたけど、1時間に24人とか30人とかっていうかたちで人数をさばっていくということになるとは思うんですけど、それで考えてみますと、やっぱ

り 20 レーンまでは必要ないんですけど、そういった十数レーン、大規模な接種会場が必要になるということで、既存の静岡市の集団接種会場の中で、最大でも、今、想定しているのはモディで3レーンというかたちなものですから、相当な、まず会場のキャパの必要性があるというふうに考えております。

◆SBS

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。ごめんなさい、重複があったら、あれなんですけど、先ほどから、前倒し、ハードルが高いとおっしゃっているのは、大規模接種会場というのを設置するのが難しいのか、それとも、設置したとしてもできない場合があるのか、何が前倒しを難しくさせているのか聞いていいですか。

◆市長

この二つの観点からすると後者です。ハード、会場は何とか今、必死に探し求めて、いくつかの候補が挙がっています。むしろそこに伴うワクチンの打ち手が確保できるか、マンパワーが非常にハードルが高いという理解をお願いします。

◆中日新聞

分かりました。会場って1カ所の想定ですか。

◆市長

現実的にはそうでしょうか。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。SBSさん、どうぞ。

◆SBS

SBSです。いくつかの候補、もし挙がっているのであれば、ちょっと教えていただけ

れば、見ている方、市民の方も、こういうとこでやるんだなと。あれば教えていただけますか。

◆市長

県と今、連携しながら協議をしていることですので、もう少し時間をください。

◆SBS

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それではよろしいでしょうか。続きまして、幹事社質問に移りたいと思います。共同通信さん、お願いします。

◆共同通信

幹事社の共同通信です。お願いします。

◆市長

お願いします。

◆共同通信

先ほど市長のご説明された件とちょっとかぶるんですけども、85歳以上の高齢者を対象にしたワクチン接種の予約が10日からスタートしているんですが、申し込みに当たって、電話やインターネットがあまりつながらないというケースが出ているんですけども、何か対策は考えてらっしゃいますでしょうか。具体的な何か対策があればお願いします。

◆市長

その前提として、まず5月12日時点の予約状況の数字についてお伝えをしたいと思います。コールセンターで2,125件、ウェブサイトからは8,694件の予約を頂いております。合計10,819件です。さらに、付帯のサービスとして静岡市独自に付けたらくタク、タクシーの運賃補助ですよね。それを予約された方が全部で321件であります。その中で、つながりにくいというようなことを、われわれも受け止めておりますので、何とかしなきゃいけない。当初の32回線から64回線に増やして備えておりましたが、なおつながりにくいというのが現状です。そこで、これからの具体的な対策なんですけれども、分析してみると、先ほどのコールセンターの8,530件の内訳で、いわゆる予約以外の問い合わせの電話が4分の3なんです。75%なんです。ですから、予約のつながりにくい

状況を少しでも解消するために、予約のコールセンターとそれ以外の回線を分けるということを検討しております。

それからもう一つは、受付時間そのものを延長していくと。民間に委託して今やってもらっているので、そのことをこれからボールを投げていって、それが可能かどうかということも見定めて、ぜひやっていきたいというふうに思っています。一方、市民の皆さんにお願いなんですけれども、電話よりもウェブサイトのほうがスムーズに予約ができるのですが、85歳以上の方々、やっぱりインターネットを通じての予約というのは慣れていません。私の母がちょうど今年85歳なんですけれども、母にスマホを通じてウェブサイト予約をするというのは非常にハードルが、それこそ高いわけですよ。ですから、スマホに慣れているお孫さんとか、85歳の方と一緒に暮らしている方で、そういうことに習熟している方がちょっと手助けをしてあげることによって、ウェブサイトからの予約を促してもらおうと。こういうこともぜひ今回、お願いしたいなというふうに思っています。

◆司会

それでは、ただいまの幹事社質問に関連したご質問をお受けをしたいと思いますが、いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。今のご説明で、予約以外の問い合わせが4分の3あるということだったんですが、例えばどんな内容なんですか。

◆市長

やっぱり自分の心配事ですよ。ちょっと実務的には、二、三、具体的な例を示して答えていただければありがたいです。

◆保健所統括監

具体的な問い合わせといいますか、苦情にもなるんですけど、そもそも接種券を85歳以上の方ということで、計画的にといいますか、お手元に届く時期をちょっと調整させていただいてます。ということで、まだ手元に届いてないんだけど予約を開始したのは不公平ではないかというようなお問い合わせ、あるいは、そもそも既に予約が開始したので予約ができると思って問い合わせをしていたら、さらには、例えば予約をしようと思ったんだけど、自分がしようと思った医療機関がそこに入ってないという、そういったものも含めたさまざまな問い合わせが発生しているということでございます。

◆市長

なので、制度自体がまだ、静岡型の制度が周知していないというところがあります。御社の全面広告を先週の土曜日、活用させてもらって、「ワクチン確保していますよ」というふうに情報発信しているつもりなんですけれども、やっぱり一日も早く打ちたいという人の気持ちがあるわけですね。私たちもいろんな自治体の例を参考にしながらやっているわけです。このクレームですね。

私の所にまだ接種券が届いてないじゃないか、不公平じゃないかという声がやっぱりこういうところに来るわけなんですけれども、でも私たちは、ある自治体が65歳以上の市民全部に一斉にどんと接種券をしたら、それこそつながりにくいところがパンクしちゃってどうしようもない状況になったと。だから今、説明をしたとおり、ある程度段階を分けて、そしてちゃんと受容できるような、現実対応可能なぎりぎりのところで、それでもつながりにくい状況は発生しているんですけれども、そういうところでやっているという、われわれのやり方についても、もっともっとご理解をさせていただいて、そして、全体としてワクチンの量は確保しているんだ、7月中には何とか打てるんだということを理解してもらって、安心していただければなということもお願いしたいと思います。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いします。

◆中日新聞

中日新聞です。ワクチン接種に関連してなのですが、全国の市長が優先接種したりとか例があると思うのですが、田辺市長としてはいつ接種するという想定でいらっしゃいますか。

◆市長

私は打つ気持ちはありません。市民ファーストでやりたいと思います。

◆中日新聞

市長もご自身の年齢のタイミングでということになるんですか。

◆市長

おっしゃるとおりです。

◆中日新聞

分かりました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

SBSです。今の質問にちょっと重なる部分があるんですけども、もし、ちなみにワクチンが余ったら、市長としては打ちたかったとか、打ちたいとかってありますか。

◆市長

急なキャンセルというのは想定しております。われわれの作ったルールの下でそれは判断していきたいと思っています。接種を希望する方でワクチンの有効期間内に会場に来ていただける方に連絡を取って、例えばですよ、同意を得た上で、医師の判断で接種をしていくという方法があり得る、あるいは集団接種会場ではその場で接種券を持っている方で、医療従事者や介護施設の従事者といった方に優先して、まだ打っていないのであれば接種をしてもらおうと、いろんな工夫ができると思います。もし補足があれば。

◆保健所統括監

個別の接種会場といいますか、診療所におきましては、普段かかっている方で接種券がお手元に届いてる方に声掛けしていただくのが一番いいかなというふうには思っております。あるいは系列の医療機関、あるいは介護施設があれば、そちらのほうに声掛けしていただければいいかなというふうに思っています。集団接種会場につきましては、どのぐらいキャンセルが出るか分かりませんが、この接種の優先順位といいますか、医療従事者に次ぐような方々、日頃からコロナのそういった現場で対応されてる方々、例えば消防職員のまだ打っていない方ですとか、あるいは警察官の打っていない方とか、そういったところも頭に入れながら、そういったキャンセルのときの対象者というところを検討していきたいというふうに思っております。

◆SBS

すいません。もう一つだけ申し訳ありません。今、各自治体のトップが打っていますけども、その状況について市長としてはどのように思われていますでしょうか。

◆市長

それは打った時期にもよると思うんです。今はもう、先ほど言ったように、市民の皆さんが一日も早く接種をしたいという方が多くなっているのです、その方々にルールに基づいて打ってもらいたいと。2カ月ぐらい前は世論調査で打ちたくないという方が3割以上いたんです。つまり副反応が怖いから、私はワクチンは嫌だという世論がかなり多かった。例えば広島市長なんかは、この前の政令指定都市の情報交換でも、「私はいの一

番に、ある意味、大丈夫だよ、打って副反応がないよ」と、ある意味で「私を使ってもらう」というか、それで私がまず打って、アメリカでもそうでしたよね。そして、大丈夫だよというアピールをして、接種をするという方向に促すということで、首長、打った方もいらっしゃる。でも、そのときはそういう世論だったものですから、広島市民が怖いということだったので、大丈夫だと、自らやったという人もいます。ですから、その辺は状況に応じてですけど、今の状況は先ほど申し上げたとおりだと私は理解しています。

◆司会

朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞です。先ほど、ワクチンの予約状況で、コールセンターの問い合わせがかなり多くて、そのうち、それ以外の回線を分けることもご検討されてるということでしたけれども、具体的にこっちの電話番号に、「クレームだったり問い合わせはこっちにしてね」とか、そういった案内とかもあるんでしょうか。

◆市長

それは本当に報道機関と連携をして、われわれも行政としてそういう情報を伝えていきたいと思えますし、また、われわれの広報紙は1カ月に1回しかありませんので、テレビ、ラジオのわれわれの持っている枠でも番号を伝えていく。本当に御社の報道にもぜひその辺り、ちゃんと分かりやすく示していかないと、混同してしまうということはあるかと思えますけれど、しかしながら、分けないといけないという問題意識はあるということをご理解いただきたいと思えますし、補足があればお願いしたいと思います。大丈夫ですか。

◆朝日新聞

続けてすみません。じゃあ、市としては、その予約の問い合わせの番号あるじゃないですか。あそこにはできるだけそういった予約以外の問い合わせはご遠慮してほしいという趣旨ということによろしいですかね。

◆市長

はい。

◆朝日新聞

分かりました。

◆市長

もし補足があればお願いしたい。正確にこここのところは伝えなきゃいけません。大丈夫ですか、今の答えで。

◆保健所統括監

非常に今、予約がスタートしたばかりというところで、まずコールセンターで予約がなかなかつながりにくいということがございますので、市民の皆さまのご協力を頂くという意味では、予約につきましては、予約のほうをできるだけ優先していただくことが非常にいいのかなというふうに思っております。ですので、コールセンター自体は元々予約以外のものも、当然いろんな不安を抱えてる方が問い合わせをする場でもありましたので、そういうものを全く拒否するということではありませんけれど、予約を優先するという意味ではそちらのほうを優先ということで、一般的な苦情は、できればもう少し待っていただけるのがありがたいかなというふうには思っております。

◆市長

少し補足しますと、先ほどの数字から割り出しますと、大体、1人当たりの電話の通話時間が約20分なんです。やっぱり、かなり一人の方に対して時間を使っているという印象を私は持ちました。そこら辺りをどうスムーズにしてくかということで、市民の皆さんへの啓発も必要かなというふうに思ってます。

◆朝日新聞

ありがとうございます。

◆司会

そのほか、読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞です。よろしく申し上げます。一人当たりの通話が約20分というのは、それは予約についての。

◆市長

全部で。

◆読売新聞

全部？ 予約以外の相談とか、いわゆる苦情とかそういったもので？

◆市長

少し詳しく補足ができればと思いますけど、いいですか。

◆保健所統括監

今おっしゃったとおり、全てということなので、予約も含めて、それから苦情とかお問い合わせも含めて、そういった時間がかかっているという状況です。

◆読売新聞

予約ですと、どれぐらいの時間ということになるんですかね。

◆保健所統括監

ちょっと時間は、ごめんなさい。また後で調べさせていただきます。

◆市長

ざっくりの時間ですと、予約だけという分類だと難しいと思います。今のところ。

◆読売新聞

分かりました。あと、すいません、コールセンターについて、最初から予約の問い合わせの番号と、その他の相談などの番号も分けておくこともできたのかなと思うのですが、そのことについてはいかがでしょうか。

◆市長

私たちは想定できるいろんなシミュレーションをして、まず最初のオペレーションをしたんですが、走りながら考えているという状況です。先ほどのことについて、少し補足をしてください。

◆保健所統括監

ごめんなさい。今の話で、今、コールセンターのほうは、かけた後、つながった後に、1番、2番、3番というふうに振り分けはしております。1番が予約で、2番がタクシーです。らくタクの予約の関係。3番がその他ということなので、ただ、全体の回線数そのものは先ほど説明したとおりですので、コールセンター全体にかかってくる電話が増えれば当然、予約のところを圧迫してしまうという状況になります。

◆読売新聞

分かりました。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、そのほかのご質問をお受けをしたいと思います。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。いくつかあるんですが、まずワクチンについて、市長、お母さま、85歳ということですが、お母さまについてどう対応されましたか。

◆市長

まだ接種券が届いていません。

◆NHK

85歳でも？誕生日を迎えたばかりだからということですかね。分かりました。あと、ちょっと話題変わりますが、イベントの開催について今の状況を伺いたいんですけども、市長、今週、月曜日アソシアで政治資金パーティーを開かれているかと思います。取材は断られてしまったんですけども、市長がこの状況下でもそういった箱形のパーティーを開いていいんだということであれば、それは一つ、ほかの同じようなイベントを検討されている方に、モデルケースとして参考になる可能性があるので、どういったかたちで感染対策を採られたのか、この場でお聞かせいただけますでしょうか。

◆市長

実行委員会が万全の感染対策をして、慎重に慎重にセミナーを開いていただいたということは感謝しております。先ほどの、市長がまだ年齢に達してないのに打つのかどうかというご質問と同じで、私だけが特別にとか、イベントをやるとかそういうことではありません。国の基準に従ってやっていくということが基本であります。国が収容率や人数制限などの基準を明確に示していますので、市のイベントもその状況に応じた対応をすることになるということに尽きると思います。

◆NHK

政治資金パーティーについては間違いなく主催者は政治家、田辺信宏だと思いますが、どういう感染対策を採られたのか、こういうことをすれば私は大丈夫と考えたという、一つのメルクマールとしてお示しいただけませんかでしょうか。

◆市長

例えば、入場時、退場時に時間をずらして密な状態を避けるとか、入場の時には当然検温と、それから消毒をしていただくとか、あるいは座っていただくことも社会的な距離

を取ってやる、会場を分散してやる、大声は出さない、そういうことを徹底して実施しました。

◆NHK

今、変異ウイルスへの置き換わりで、3密じゃなくても、1密、2密でも危ないということいわれてますけれども、今おっしゃったようなことをやれば箱形のパーティーをやってもいいんじゃないかというのが、市としての考え方でしょうか。

◆市長

そうですね。とにかく厚生労働省のホームページをご覧くださいと、私、この前の会見で申し上げましたけれども、東京や大阪の状況と静岡の状況は違います。ですので、東京都知事の非常宣言下でのイベントの呼び掛けと、静岡の呼び掛けは違うということです。その辺りのところは、市民の皆さんにはちゃんと伝えなきゃいけないことだと思っています。

◆NHK

なお、この政治資金パーティー、当初2月ですか、開催予定だったのを延期されたということですが、2月は駄目だけれども今なら開けると判断された理由、中止をしなかった理由はお聞かせいただけますか。

◆市長

12月だったんです、当初は。昨年の12月が第2波で非常に高かった。10万人当たりの新規感染者が20人を超えていた時だったので中止を余儀なくされた。これが今は5人以下ですので、延期をせず、今回は実施に踏み切ったということです。

◆NHK

分かりました。では、その件については結構です。ではもう一つ、ごめんなさい。話題変わりますが、18歳になる市民の方の住所、氏名の自衛官募集協力のための情報提供についてなんですけれども、今回、従来住民基本台帳の閲覧をしてもらう形から、シールに印刷してそのまま宛名として貼ってもらうという方式に、今年度から切り替えるということですが、市としては自衛隊へのそういった個人情報の提供は公益性が高く、国の通知にも従った適法で、必要なことだと考えて、そのように方針変更を市長も了承されたんだと思います。であれば、なぜ市は、静岡市は積極的な取り組みを今年度から進めますよということを、市民に広く、あるいはほかの市町にも参考になるようなかたちで積極的に広報しないのか、市長の考えをお聞かせいただけますか。

◆市長

むしろ、これはほかの市町のほうがこういうことについては情報提供しておりました。あくまで自衛隊法に基づく考え方で、私たちの基本方針は変わっていません。自衛隊からの依頼に対して、これまでも住民基本台帳の閲覧とか書き写しということで対応していたわけでありますので、市の権限を逸脱するものではないということを、ぜひ、ご理解いただきたいと思います。

◆NHK

それをどうして、今年度から市はそういうふうに積極的にやりますよということを広報しないのか。市としてこれを誇らしいこととは思ってないのでしょうか。

◆市長

そんなことはありません。そんなこと、私どもから声高に、一つ一つのそういうことについて、例えばいろんな要望が来るわけですから、議会からも来るし、市民からも来るし、それを全部、ここの地区からこういう要望がありましたというのは広報しませんよね。だから、これが何か特定の意図を持って広報しないということではないということ、ぜひご理解いただきたいと思います。

◆NHK

なぜこういうことを伺うかといいますと、例えば、京都市でもこの宛名シール、前からやっているんですけども、京都市は自分の情報は提供されたくありませんという方のために、除外申請を行う様式をホームページなどで公表されています。どうして静岡市は、そもそもそういった提供をするよということを公表せず、なおかつ、除外申請してほしい、自分の情報は自衛隊側に渡さないでほしいという方の希望を聞くというプロセスは踏まないのか、お聞かせいただけますか。

◆市長

その前の状況ですね、まだ、静岡市は。今まで書き写してもらったものを、1回限りの提供というようなことで、国と市と連携をしたということであります。自衛隊の活動は市民の安全、安心の確保に欠かせません。3. 11以来、自衛隊には私たちは大変お世話になりました。自衛隊のイメージ、国民のイメージというものも変わってきております。そういう意味では、自衛隊への情報提供というのは公益性が高いというふうにも判断しております。18歳の皆さんの情報を今、提供することになりましたけども、個人情報の取り扱いというのは、記者ご指摘のとおり、十分注意をしなければいけないと思いますので、その京都市の事例というものも一つの参考にしたいと思いますけれども、でも、今回も手元に情報が残らないように、宛名シールという工夫をしてでの提供にとど

めているということをご理解いただきたいと思います。

◆NHK

提供されたくない方からの除外申請は受け付けるのかどうか。

◆市長

これからの検討課題ですね。

◆NHK

それは、もう提供が6月に迫っていると思いますけど、それは。

◆市長

今回はこの方法でやります。

◆NHK

今年度は？

◆市長

はい。

◆NHK

来年度以降、除外申請を検討されると？

◆市長

京都市の事例も調べてみたいと思います。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほかいかがでしょうか。中日新聞さん、お願いいたします。

◆中日新聞

中日新聞です。2点だけ。高橋雨水ポンプ場で内部調査があったと思うんですが、これから先、第三者委員会であるとか、もっと中立的な部署で調査は検討されないのでしょうか。

◆市長

御社の新聞記事、私も初めて昨日読ませていただいて、初めて知りました。これは事実を今、確認しておりますので、改めて報告をさせていただきます。

◆中日新聞

報告をするというのは、新たな調査をするかどうかということですか。

◆市長

そうではなくて、事実確認をした上で現課のほうからまたお答えをさせていただきます。

◆中日新聞

分かりました。その答えもお願いしたいんですが、それ以外にも今までも、壊すところがないという話がありながら、まだ壊すところがあったりとか、今の体制でなかなか計画進行するのが難しいのかなと思ったりもするんですが、何か建築計画の透明性を上げることは対策としてできないんでしょうか。

◆市長

それも検討課題だろうと認識しています。

◆中日新聞

分かりました。あと別の話で、静岡市さんが積極的にやられているプレミアムフライデーの推進事業のことを調べさせていただいたんですが、調べると、ほかの市町で積極的に、今、取り組んでいるところが少なかったりだとか、国のほうも経産省も予算を計上していなかったりとか、市民のほうでも、コロナ禍もあってなかなか月末金曜日に外に出て買い物に行くとか、そういう動きはあまり見られないと思うのですが、その中で市として続けていかれる意義というのはどういうところにあるんでしょうか。

◆市長

これはもう少し中長期的に大局的に、記者さん、報道してほしいなと思います。コロナ禍の中ではご指摘のとおり、今、プレミアムフライデーなんていう心のゆとりというのはないんだろうというふうに思っています。しかし、私たちはあのとき、働き方改革をしなければいけない、日本人のワークライフバランスを取っていかなければいけないという国との連動の中で、国が提案をしてきたプレミアムフライデー、これは経済産業省の若手の職員が、「アメリカでブラックフライデーというのをやっているよ、それは参考にならないか」というところから端を発した事業で、いわば机上の提案だったと思います。しかし、静岡市やってくれないかということで、私たちは、「よし、国と連携し

て、この働き方改革の一環の一事業としてやってみよう。プレミアムフライデーという言葉は共通のワードとしてやってみよう」ということで始まったものであります。幸い静岡市は行政だけではなくて、商工会議所を中心とした経済界の皆さんも大変協力していただいたわけです。ですので、そういう意味では一定の成果を、ビフォーコロナの時には得られたということをお負しております。継続は力であります。私は、むしろ国、経産省が予算をゼロにしたというのはいかかなものかと思えます。国こそ“言い出しっぺ”でありますので、働き方改革で、やはりこのプレミアムフライデーというのを、ぜひ、これからも連携してやるという意味を示してほしいということをお、国には申し上げたいなというふうに思っています。

◆中日新聞

分かりました。今のお話ですと、プレミアムフライデー、コロナはいつきのもので、もしこれが終息した後は、また月末金曜日に戻るという機運が高まるというお話なのかと思うんですけど。

◆市長

いや、そうじゃないですよ。月末金曜日には限りません。私たち、実施していて、これ、ビフォーコロナの時代で、「月末金曜日にこだわることはないよ」というような議論も現実的にしております。ですので、ちょっとその辺、まだ認識不足だと思いますので、また別の機会で、私、丁寧に説明をして差し上げたいと思います。

◆中日新聞

そうすると、わざわざプレミアムフライデーと名付けなくても、ほかの消費喚起策であるとか、働き方改革を進めるという方向もあるのかなと思うのですが。

◆市長

おっしゃるとおりです。プレミアムフライデーというのはあくまでも国から提案があった用語なんです。

◆中日新聞

そしたら、プレミアムフライデーと銘打たなくても、それ以外の働き方改革を。

◆市長

それは既にビフォーコロナの時に、あなたが、まだ、この支局にいなかったときに、きちっと検討しているということも、ぜひ、ご理解いただきたいと思えます。

◆中日新聞

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

そのほか。第一テレビさん、お願いします。

◆静岡第一テレビ

静岡第一テレビです。お世話になります。静岡知事選について伺いたいのですけれども、昨日、田辺市長は岩井さんの中部の事務所開きにご出席されました。まずはその意図、理由について伺えますでしょうか。

◆市長

やはりこの前申し上げたとおり、コロナのことにしてもそうだし、清水港のことにしてもそうだし、県と市の連携というのはすごく大切であります。そういった点では、私は県と連携ができる候補者であってほしいなというふうに思っています。それは前回申し上げたとおりですが、今日は市長の公的な記者会見の場ですので、これについてはまた別の機会にそういったお話をしたいと思っています。

◆静岡第一テレビ

続けた質問で恐縮なんですけれど、別の機会に、また、それはお話いただくのかもしれませんが、政令市の市長さんでもある田辺市長が、やはり自民党本部が推薦した候補者の事務所開きに行くというのは、ある意味、やっぱりそれなりの意味があるというふうに見ているんですが、じゃあ今後、何かしらの場で知事選に向けた、例えば岩井さんを支持するとか支援するとか、そういった方向性をどこかで明確にするというお考えでしょうか。

◆市長

それも含めて、また別の機会にお話をできればと思っています。今日はもう時間が許さないものですから。

◆静岡第一テレビ

分かりました。

◆司会

静岡朝日テレビさん、お願いいたします。

◆静岡朝日テレビ

すいません、同じ質問になってしまうんですけども、昨日、事務所開きに行かれて、岩井さん支持ということでもいいんでしょうか。

◆市長

いや、今、申し上げたとおりです。私たち連携中枢都市圏をしている中で、連携が大切だというふうに思っております。今後の県との連携も必要です。そして、今、水平連携を私たちはしているんですね。県中部の連携中枢都市圏で5市と連携をしています。そういった意味で、牧之原市長と焼津市長、島田は今、選挙、目下、目下ですが、藤枝市とわれわれと、昨日、やはり連携していかなければいけないよね、市同士の連携も必要だし、県との連携も必要だよねということで、市長同士が連携しながら気脈を通じながら話をしています。そういう中で昨日は、牧之原からも市長さん、焼津からも市長さん、そして藤枝市からは副市長さんがいらっしやっていただきました。そういう今、私たちは問題意識を持っているというご理解をいただきたいと思います。

◆静岡朝日テレビ

すいません、続きなんですけど、川勝知事の事務所開きみたいなものに出席する予定というのはあったりするんでしょうか。

◆市長

連携の第1条件というのが、やはりお互い意見は違っても、立場は違っても、相手の立場に敬意を表して聞く耳を持つということが大事なんだろうと思います。例えば、牧之原市や焼津市ともわれわれは背負っているものが違います。しかし、お互いの立場を相互理解しつつ連携して、折り合いを付けて、連携中枢都市圏で5市2町でやっていこうということで、この広域行政が前に進むだろうと思います。ですから、いろいろな組織に攻撃してばかり、批判してばかりの方とは連携がなかなかできないというのが、この4年の私の実感であります。

◆静岡朝日テレビ

今の点は、川勝知事とは連携できないなという、そういうことですか。

◆市長

受け取ってください。今日は公的な、行政の長としての記者会見の場です。

◆静岡朝日テレビ

ありがとうございます。

◆司会

45分となりましたが、いかがでしょうか。最後の1問ということでよろしいですか。

◆市長

どうぞ、SBSさん。

◆司会

じゃあ、SBSさん、お願いします。

◆SBS

申し訳ありません。先ほどのお話にもあった中に、岩井氏のどういうところが県と市の連携が大事な、やってくれる候補者だなというところを感じているのか、ぜひ率直なご意見を教えてください。

◆市長

今まで参議院議員として、静岡市、各省庁への国要望ということパイプ役を務めていただいたというふうな、感謝の気持ちがあります。近頃でも長沼の交差点の改良について、非常に大きな静岡市の道路行政の課題ですけれども、大変関心を持っていただいているというふうな受け止めています。

◆SBS

田辺市長本人もそういったところは、岩井さん、信頼している部分であるというか、その辺りは具体的にどうでしょうか。

◆市長

もちろんそういうところがあります。ただ、今日、政策の発表をするんですか、それも注視していきたいと思ってます。

◆SBS

川勝知事よりもやはり岩井氏のほうがうまく回るのかなという。

◆市長

皆さんの関心事がそこにあるということは十分承知していますけれども、また、次の機会に譲りたいなと思います。

◆SBS

ありがとうございます。

◆司会

じゃあもう1問ということで、どうぞ。

◆NHK

ごめんなさい、NHKです。子どもたちのためと思って、もう1問お付き合いください。4月30日から始めた静岡市の生理用品の無償配布事業について、市として衛生用品という言い方をされていて、これ、私、聞く限り非常に分かりづらいと。特にコロナ禍で衛生用品というと、やはり感染対策のグッズでももらえるのかなとしか解釈できないということで、なかなか、特に生理が始まったばかりだけれどもナプキンが欲しいと言えない、手に入らなくて困っている子どもたちには伝わりづらいのではないかという意見を盛んに聞くんですけども、どうしてお役所言葉が嫌いなはずの田辺市長が、こういった、あえて分かりづらい言葉に言い換えてしまうのか、どうお考えなんでしょうか。

◆市長

なるほど。私も事前に同じような問題意識を持っていました。なるべく行政用語やお役所言葉は使わないようにしようというような問題意識でした。一方で、このことについてはすごくセンシティブな問題なんです。直接的には生理用品ということなんですけれども、それを活字とか印刷物にするということについて、やっぱり女性の気持ちに寄り添わなければいけないという検討が実務的になされた一つの結論が、こういう表現だったということで私は理解しております。とにかくこれはもう少し大きな枠組みの中では、議会からの要望をもらって始めたんですけども、SDGsの未来都市として、やはり誰一人取り残さないという部分や、ジェンダーイクオリティの立場から、このコロナ禍においてこそ必要な施策だということで乗り出したものですので、その趣旨をぜひご理解いただきたいなと思います。

◆NHK

誰一人取り残さないのであれば、まさに誰でも分かるように生理用品というべきではないのか、少なくとも富士市、焼津市、浜松市と、それぞれ生理用品という言葉を使っていますけれども、横並びがいいとは申しませんが、今からでも言い換えられないのか、いかがなんでしょうか。

◆市長

今日、問題提起を頂いたという受け止めでもう一度ボールを投げてみますが、事前の検

討をしてくれた局から少し経緯も含めて補足をお願いします。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長の杉山でございます。よろしくお願いいたします。今、ご指摘いただいた用語、言葉でございますけども、この取り組みを実施するに当たっては、関係する区役所、あるいは市役所の担当部署の女性職員の意見を聞きながら、最終的に衛生用品という言葉で事業をスタートさせていただいたところでございます。今、記者ご指摘いただいたとおり、お子さんのほうには分かりづらいのかもしれないというご指摘も、今、いただきましたので、これから、この事業始めたばかりですので、実施する中でその辺も踏まえて検討していきたいというふうに思っております。

◆NHK

分かりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは、以上で本日の記者会見を終了させていただきます。次回は5月28日金曜日の予定となっております。本日はありがとうございました。

◆市長

どうもありがとうございました。